日進市 内水ハザードマップ

大雨に備えて

近年、ゲリラ豪雨や台風などによる大規模な浸水被害が各地で年々増加しています。

このような大雨による被害を最小限にするため、市民一人ひとりが浸水被害に備えるとともに、いざという時に適切な行動がとれるよう、「日進市内水ハザードマップ」を作成しました。

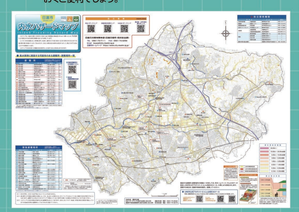
マップの構成

おもて

水害発生のメカニズム→風水害に備えよう(1)(2)→風水害情報を入手しましょう(1)(2)→避難時の心得の順に掲載しています。

うら

防災関係機関、避難場所等の位置情報が掲載されていますが、ここにわが家の最寄りの避難所や避難ルート等を書き込んでおくと便利でしょう。



1 水害発生のメカニズム

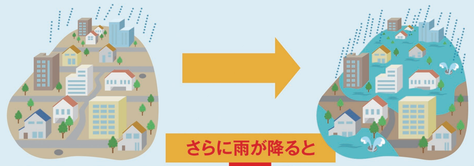
■ 大雨の発生

- 台風による大雨
- 積乱雲による大雨
- 梅雨前線・秋雨前線などによる大雨
- 短時間の集中豪雨

内水はんらん　内水ハザードマップ

街などに降った雨は、下水道(雨水)などを通って川に排水されます。

雨が続くと河川の水位が上がり、排水ができなくなると下水道(雨水)から水が溢れてしまいます。



さらに雨が降ると

外水はんらん　洪水ハザードマップ

河川の水位が上がり続け、堤防いっぱいまで水位が上がると堤防への水の圧力が強くなります。

水の圧力に堤防が耐えられなくなった場合、堤防の一部が崩れ始めます。

崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出します。

どのような水害が起こる可能性があるのか、内水ハザードマップ、防災対策マップ、洪水ハザードマップを合わせて確認しましょう。

内水ハザードマップ　防災対策マップ　洪水ハザードマップ

2 風水害に備えよう(1)

風水害は、基本的にいつ・どこで起こるかわかりません。いざというときに慌てないように、**実際に災害が発生したときのことを想定して、日頃から備えておきましょう。**

- ■ 避難先および避難経路について確認しておきましょう。

- ■ 日頃から、災害用品や非常持出品を用意しておきましょう。

- ■ 一人暮らしのお年寄りなど、避難の際に支援が必要な方に目を配りましょう。

- ■ 最新の気象状況や災害情報に注意しましょう。

- ■ いざという時に備えて、家のまわりを点検・整備しておきましょう。

- ■ 浸水防止のため、道路の側溝や雨水ますの点検のご協力をお願いします。

3 風水害に備えよう(2)

備蓄と非常持出品を用意しておきましょう

風水害発生時には、食料供給の減少や食料品・生活用品の需要が一時的に集中し、品薄状態や売り切れ状態になるおそれがあります。電気、ガス、水道が止まることを想定して、家庭での備蓄を行いましょう。

飲料水や食料は、一週間程度(最低でも3日分)の準備はしておきましょう。

家庭にストックしておく災害用品例			感染症対策用品
□ 飲料水	□ ガムテープ	□ 家族の写真	□ マスク
□ 食料品	□ ポリタンク	□ 下着・靴下	□ 消毒液
□ カセットコンロ	□ 毛布	□ オムツ	□ 体温計
□ カセットボンベ	□ ごみ袋・ポリ袋	□ ミルク	□ ウェットティシュ
□ 予備の電池	□ 常備薬	□ 簡易(携帯)トイレ	□ スリッパ
□ トイレットペーパー	□ 紙皿・紙コップ	□ ブルーシート	□ ビニール手袋

■ ローリングストック法

普段の食料品を少し多めに買い置きし、消費した分を補充するローリングストック法を実践すれば、手軽に備蓄に取り組むことができます。生活用品にも応用できます。

- その1　普段の食料品を少し多めに買い置き(保存期間の長いものを)
- その2　チェックリストを作成し、賞味期限を考えながら消費
- その3　消費した分を補充

非常持出品のチェックリスト　　年　月　日 確認

避難するときに持ち出す必要最小限のものを非常持出袋に入れて、玄関などのすぐに取り出せるところに保管しましょう。

貴重品	非常食	防災用品	必要に応じて用意するものなど
□ 現金(10円玉含む)	□ 飲料水	□ 懐中電灯	□ 携帯電話の充電器
□ 通帳の写し・印鑑	□ 乾パンやクラッカー	□ ライター、ろうそく	□ 予備の眼鏡、補聴器など
□ 運転免許証の写し	□ レトルト食品・缶詰	□ 携帯ラジオ	□ 簡易(携帯)トイレ
□ 健康保険証の写し	□ ナイフ、缶切り	□ ヘルメット	□ トイレットペーパー
	□ はし、スプーン	□ 笛(ホイッスル)	□ 生理用品
医療用品	**生活用品**	**衣類等**	□ 乳幼児用食品(粉ミルク等)
□ 常備薬の予備	□ ポリ袋	□ マスク	□ おむつ(乳児、高齢者用)
□ 救急医薬品	□ 新聞紙	□ 上着・下着・靴下	□ アレルギー対策食品
□ ばんそうこう、消毒液	□ ティッシュペーパー	□ レインコート・防寒衣	□ 口腔ケア用品(歯ブラシセット・洗口液・口腔ウェットティッシュ等)
□ ウェットティッシュ	□ ラップフィルム	□ タオル	

わが家の保管場所

●風水害発生時に必要となるものは人によって異なります。必要に応じて項目を加えたり、定期的に中身の点検を行いましょう。

わが家の防災メモ

火事・救急 119番　警察 110番

家族との連絡先

家族の名前	生年月日	会社名・学校名など	電話番号	血液型

緊急連絡先

連絡先	電話番号	連絡先	電話番号
日進市役所	0561-73-7111	愛知中部水道企業団(上水道)	0561-38-0030
保健センター(救護所)	0561-72-0770	中部電力パワーグリッド(株)天白営業所	0120-929-479
市民会館(救援物資受付所)	0561-72-0955	東邦ガスネットワーク(お客様サポート)	052-872-9238
中央福祉センター(ボランティア受付所)	0561-73-4885	西日本電信電話(株)	113
日進消防署	0561-73-0119		
愛知警察署	0561-39-0110		
名古屋鉄道(株)豊田市駅	0565-32-0336		
名古屋市交通局地下鉄赤池駅	052-802-2264		

わが家の約束事を書き込んでみよう

- □ 避難場所や避難所…
- □ 避難ルート…(気をつけること等)
- □ その他(子どもの引き渡し方法など)…

■ 災害用伝言ダイヤル(171)の使い方

災害用伝言ダイヤルは、災害の発生により電話がつながりにくい状況になった場合に開始される「声の伝言板」です。サービスの開始は、テレビやラジオなどで広報されます。体験利用することができますので、使い慣れておくと良いでしょう。

体験利用提供日
毎月1日及び15日
正月三が日:1月1日～3日
防災とボランティア週間:1月15日～21日
防災期間:8月30日から9月5日

どなたでもご利用できます。(事前契約等は不要です。)　音声案内に従ってボタンを押してください。

171 → 伝言するときは 1 → (　　) - → 伝言する(30秒以内)
171 → 伝言を聞くときは 2 → (　　) - → 伝言を聞く(30秒以内)

災害用伝言ダイヤルに関する問合せ:NTT西日本　東海支店　116

日進市　総務部防災安全課・建設部道路河川課
〒470-0192 日進市蟹甲町池下268番地　TEL(0561)73-7111(代表)　FAX(0561)74-0258
ホームページ https://www.city.nisshin.lg.jp

4 風水害情報を入手しましょう(1)

防災情報・緊急情報の提供

■ 正確な情報収集

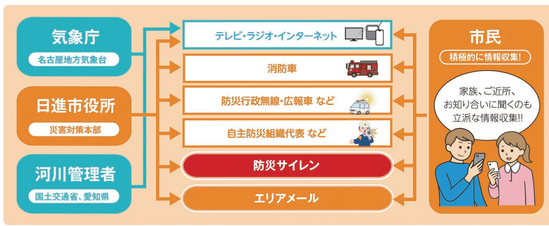
風水害に関する情報を的確に入手することは、自分の身を守る上で重要なことです。
最新の情報をこまめに確認して常に状況を把握し、自らの命を守るための行動を優先して行いましょう。

正確な情報収集と自主的避難を

ラジオやテレビ、SNSなどで、最新の気象情報や水害情報、避難情報を確認しましょう。少しでも危険を感じたら、早めに自主的な避難を心がけましょう。

避難の呼びかけに注意を

危険が近づいたとき、市役所や消防署から避難の呼びかけが行われることがあります。呼びかけがあったときは、すぐに避難しましょう。



■ 防災サイレン

このQRコードはサイレン音が視聴できるページに移動します。

サイレンの鳴り方は、下の2種類です。
サイレン音を聞いたら、テレビやラジオなどでその内容を確認し、直ちに身を守る行動をとってください。

エリアメール配信内容

- 高齢者等避難
  避難指示
  緊急安全確保
- 土砂災害警戒情報
  緊急地震速報

5 風水害情報を入手しましょう(2)

風水害に備えましょう

■ 警戒レベルと避難情報

日進市から「警戒レベル❸、❹」が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。「警戒レベル❸」で高齢者等は危険な場所から避難をし、「警戒レベル❹」で危険な場所から全員避難してください。

警戒レベル	住民が取るべき行動	行動を促す情報	防災気象情報:浸水の情報(河川)	防災気象情報:土砂災害の情報(雨)
5	命を守る最大限の行動	緊急安全確保(日進市が発令)	氾濫発生情報	大雨特別警報(土砂災害)
警戒レベル4までに必ず避難!				
4	安全な場所へ避難	避難指示(日進市が発令)	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3	高齢者等は避難	高齢者等避難(日進市が発令)	大雨警報 洪水警報	洪水警報
2	自分の避難を確認	大雨・洪水(気象庁が発令)	氾濫注意情報	大雨注意報 洪水注意報
1	情報に注意	早期注意情報(気象庁が発令)	――	――

(高 → 危険度 → 低)

市長は、**河川や雨の情報(防災気象情報)**のほか、地域の土地利用や災害実績等も踏まえ総合的に**避難情報等(警戒レベル)**発令判断をすることから、**警戒レベル**と**警戒レベル相当情報**が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

災害の危険性		
高	大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
	土砂災害警戒情報	大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時
	大雨警報	大雨によって、重大な災害が起こるおそれがある場合
低	大雨注意報	大雨によって、災害が起こるおそれがある場合

<雨の強さ(一時間降水量)>

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm以上
雨の音で話し声がよく聞き取れない。この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	どしゃ降り。地面一面に水たまりができる。側溝や下水、小さな川があふれることがある。	バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降る。水しぶきで一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。土石流が起こりやすく、発生する可能性が高くなる。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く厳重な警戒が必要。

記録的短時間大雨情報　大雨警報発表時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、まれにしか観測しない雨量であることをお知らせするために愛知県気象情報の一種として発表するものです。愛知県の場合、1時間に100mm前後の雨を観測したり、解析されたときに発表されます。

■ 自主防災会・防災訓練に参加しましょう

平常時の取り組み
○防災資機材の準備
○避難経路・危険個所の確認

災害時の活動
○住民の安否確認
○被害状況の収集・伝達
○水防活動

6 避難時の心得

その1 情報収集

テレビ、ラジオ、携帯電話またはスマートフォン、防災行政無線、広報車等から情報を集めましょう。

その2 避難ルートの事前確認

いざという時に備えて、普段から家族で避難ルートを決めておきましょう。

その3 避難するときは

高齢者や身体が不自由な方の避難を手助けし、助け合って避難しましょう。車での避難は道路冠水で動けなくなることがあるので、徒歩で避難しましょう。

その4 無理な避難の回避

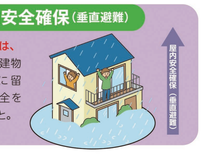
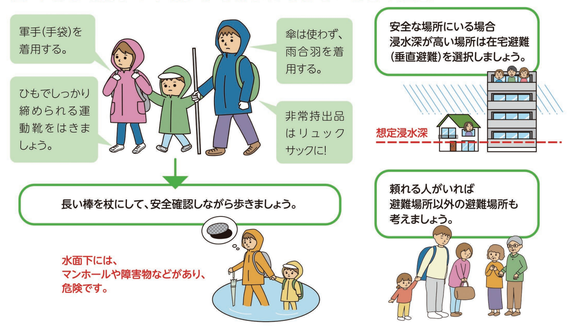
もし逃げ遅れたときには、無理に避難せず、**2階以上**等、屋内の安全な場所に避難しましょう。(水平避難から**垂直避難**へ)

■ 立ち退き避難(水平避難)

避難行動には、自宅から避難所へ安全な場所へ移動すること。

■ 屋内安全確保(垂直避難)

避難行動には、自宅などの建物の上の階に留まって、安全を確保すること。



■ やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意